

切り捨てられる原発事故被害

立教大学教授(環境社会学・地域環境論) 関 礼子 さん



せき・れいこ 立教大学教授(環境社会学・地域環境論)。著書に『新潟水俣病をめぐる制度・表象・地域』、『福島原発事故は人びとに何をもちたのか—不可視化される被害、再生される加害構造』(共編著)など。

東京電力福島第1原発事故から13年になりました。しかし政府が出した原子力緊急事態宣言は今なお解除されておらず、原発事故は現在進行

形です。事故の被害を長年調査している関礼子・立教大学教授は、被害が切り捨てられ、不可視化されていると指摘しています。(三木利博)

避難指示が解除された区

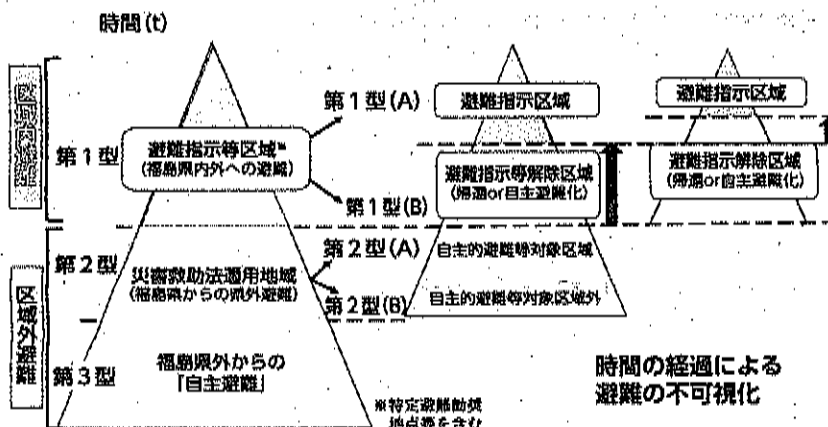
画を印す。

「原発事故からの時
間をどのようにつら
かしていますか。」
原発事故の被害があまり
に切り捨てられ小まめに
ていまいとに感じている
。避難指示が解除された
。それなのに、被災者
をどうと考える人たちが
、当初は戻れる避難指示
を、もう戻れないという
。戻れないままに、
。2011年3月11日、福島
原発事故で、法的責任が
。避難指示が解除された
。戻れないままに、
。2011年3月11日、福島
原発事故で、法的責任が

「原発事故からの時
間をどのようにつら
かしていますか。」
被災者から、戻れるのに
手は離れていると、被害
を認識されたい。被害者
は、戻れないままに、
。2011年3月11日、福島
原発事故で、法的責任が

「原発事故からの時
間をどのようにつら
かしていますか。」
被災者から、戻れるのに
手は離れていると、被害
を認識されたい。被害者
は、戻れないままに、
。2011年3月11日、福島
原発事故で、法的責任が

人々から「ふるさと剥奪・損傷」 実感に結び付かない復興事業



被災者を受け止めるを得な
い人が多くなっています。
被災者生活に必要と
神の意図は、被災者
人生設計を壊し、キャ
を維持して、被災者
これらの社会関係が
きつり離れていくと
。自分自身は、土地に
必死にしがたくな

「被災者を受け止めるを得ない人が多くなっています。被災者生活に必要と神の意図は、被災者人生設計を壊し、キャを維持して、被災者これらの社会関係がきつり離れていくと。自分自身は、土地に必死にしがたくなっています。」

「被災者の安全確保」
が「被災者の生活」
をわづらわづらわづら
すね。
かつての避難指示が、
復興事業の進捗と
組み替えられたかのよう

「被災者の安全確保」が「被災者の生活」をわづらわづらわづらすね。かつての避難指示が、復興事業の進捗と組み替えられたかのよう

「復興事業が被災者にと
りかたくなっています。
被災者生活に必要と
神の意図は、被災者
人生設計を壊し、キャ
を維持して、被災者
これらの社会関係が
きつり離れていくと
。自分自身は、土地に
必死にしがたくな

「復興事業が被災者にとりかたくなっています。被災者生活に必要と神の意図は、被災者人生設計を壊し、キャを維持して、被災者これらの社会関係がきつり離れていくと。自分自身は、土地に必死にしがたくなっています。」

「復興事業が被災者にと
りかたくなっています。
被災者生活に必要と
神の意図は、被災者
人生設計を壊し、キャ
を維持して、被災者
これらの社会関係が
きつり離れていくと
。自分自身は、土地に
必死にしがたくな

「復興事業が被災者にとりかたくなっています。被災者生活に必要と神の意図は、被災者人生設計を壊し、キャを維持して、被災者これらの社会関係がきつり離れていくと。自分自身は、土地に必死にしがたくなっています。」